

カラバフ — ムガムの発祥地

アゼルバイジャンの伝統的な民謡であるムガムは、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）によって人類の口承及び無形遺産の傑作として認識され、全世界から注目を集めている音楽界の現象である。ムガムは、アゼルバイジャン人の代表的な芸術である。アゼルバイジャンの表現力はアゼルバイジャンの国境を越えてたくさんのファンの心を獲得することができた。ムガムは、口頭伝承のプロフェッショナルな音楽として演奏家に才能や勤勉さのみならず、深い知識をも必要とする。本誌の読者のみなさんは、ムガムの歴史、伝統及び現代性について知るだろう。

ムサ・マルジャンリ、
編集長

アゼルバイジャンのムガムの発祥地は、豊かな自然・伝統的文化のあるカラバフである。カラバフは、多くの傑出した歌手、作曲家、音楽の故国である。カラバフの文化・歴史中心地であるシュシャは、「コーカサスの音楽院」、「音楽・詩の発祥地」と呼ばれるのが偶然ではない。

カラバフ、中心地のシュシャ、7つ周辺地区が一アゼルバイジャン領地の20%—ここ20年以上アルメニアによって占領されており、アルメニアがすべての国際的な規範や法律を厚かましく踏みつけ、国連安保理決議安全保障理事会の決議を無視している現状だ。カラバフではアルメニア軍によってアゼルバイジャンの国民に反して虐殺行為が起こされ、ホジャルという町が完全に破壊された。ホジャルでの虐殺の国際法観点は本誌の記事でお読みになることができる。